

# 想定される投げ かけと論点提示

テーマ1・テーマ2からのピックアップ

ケース検討会議

合同作戦会議

ニーズ想定

ニーズキャッチ

次回プランの改善と教訓化

情報共有

どの段階の連携なのか

ニーズ内容の分析・整理

支援効果の測定

情報共有

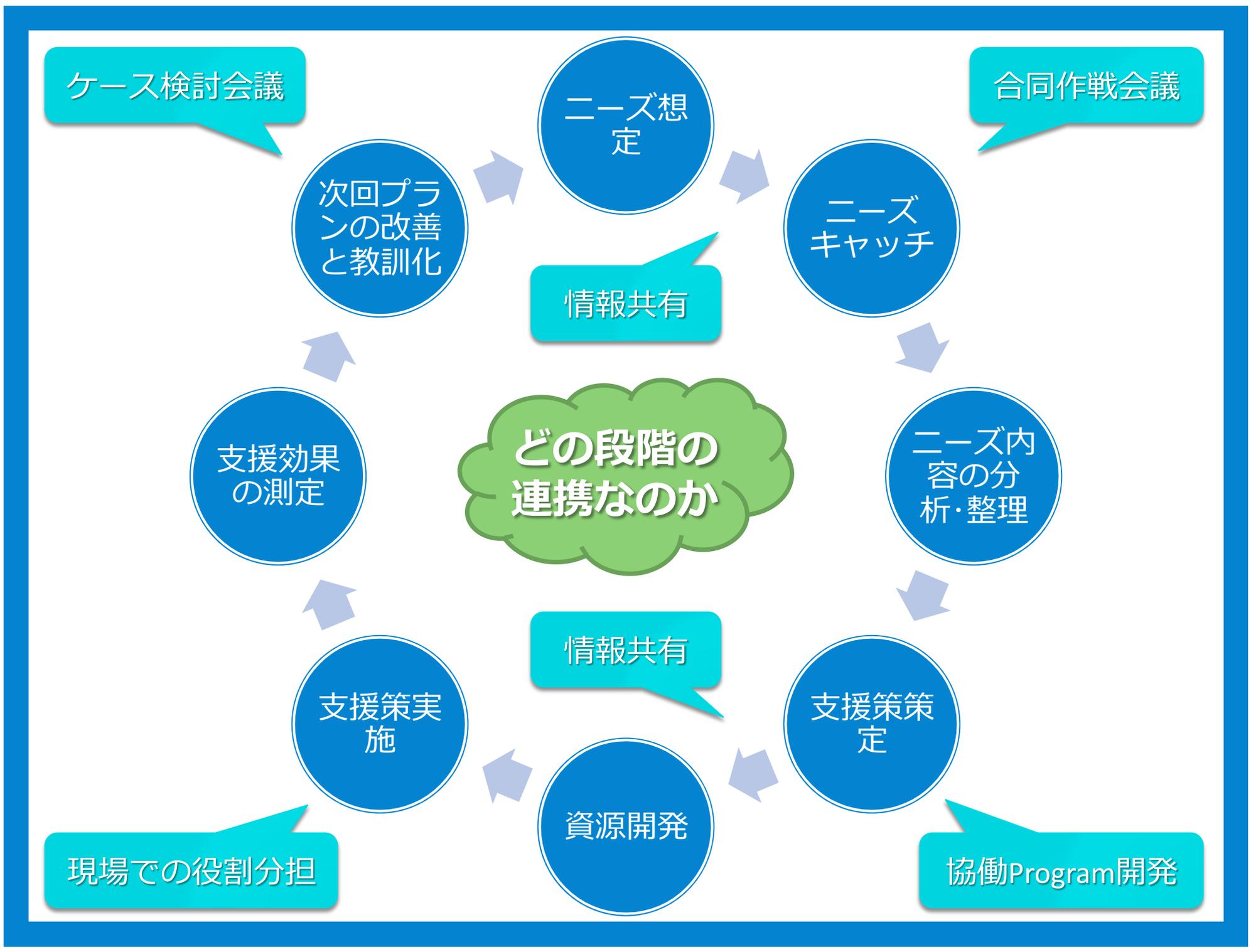
支援策策定

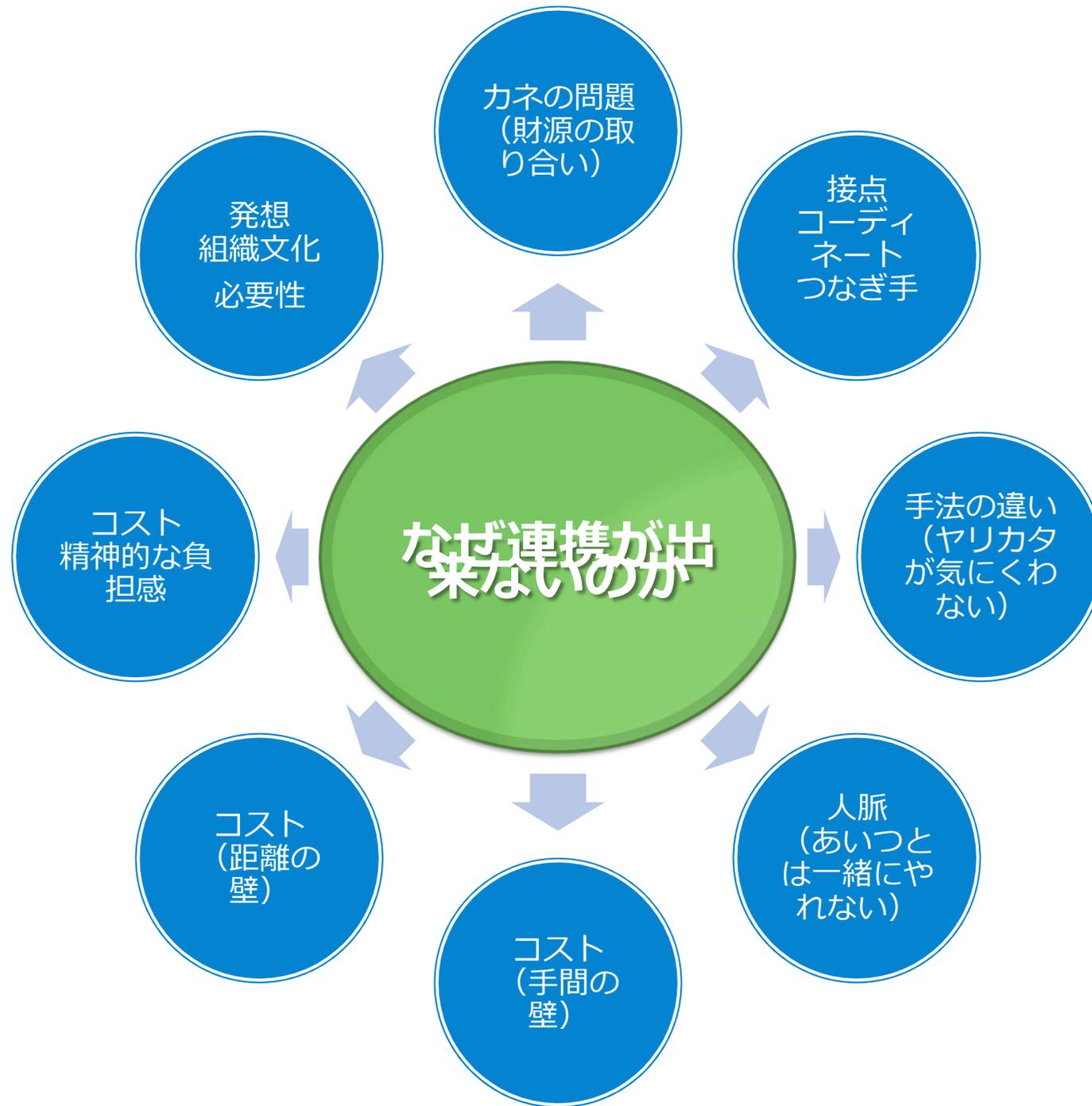
支援策実施

資源開発

協働Program開発

現場での役割分担





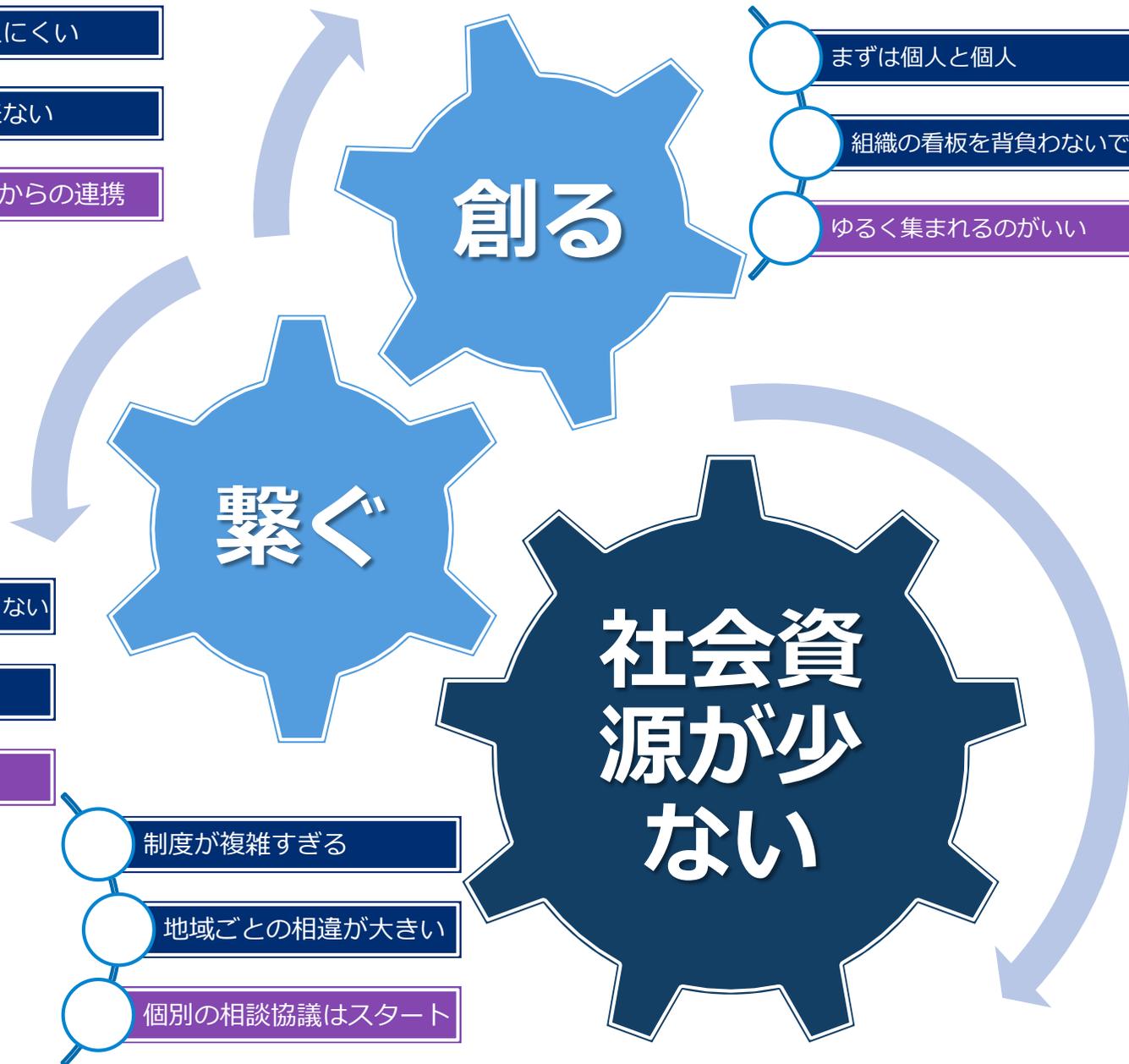
# キーワード

- ◆課題の多様化
  - ◆地域の見守りネットワークの構築
  - ◆生活課題の認識・発信・キャッチ
  - ◆県域の私たちにとって当事者（支援対象）は？
  - ◆事務作業など、単純労働に負担感
  - ◆それぞれのチャンネルの違い
  - ◆将来が見えにくい中でビジョンを示すには？
- 
- ◆マネジメントの重複を防ぐ
  - ◆県域における包括ケア会議に類する存在は

	外部NPO	地域NPO	社協	行政
生活困窮者自立支援			↔ ○ ↔	
人材配置系事業 コミュニティ交流員 生活支援相談員 復興支援員 復興帳コーディネーター	○	○	○	
復興公営住宅移住 郡山（先行事例） 南相馬（地域内格差） いわき（外部との関係性）				
復興公営住宅コミュニティ形成				
* * * * *				
* * * * *				

- なぜ、なんのための連携かを見失わないで
- 福島は、そのゴールが見えにくい
- 経験に基づく先読みが出来ない
- 実行段階ではなく、計画段階からの連携

- まずは個人と個人
- 組織の看板を背負わないで
- ゆるく集まれるのがいい



- 存在を知ってもらい努力が足りない
- 存在を知る機会が少ない
- 中間支援の役割

- 制度が複雑すぎる
- 地域ごとの相違が大きい
- 個別の相談協議はスタート